

平成20年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

調査の概要

1. 調査の目的

- (1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な研修改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2. 実施日 平成20年4月22日(火)

3. 対象 小学校6年生及び中学校3年生

4. 調査内容

学力調査	「知識」	国語A 算数・数学A	・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能など(主として「知識」に関する問題)を中心とした出題
	「活用」	国語B 算数・数学B	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容(主として「活用」に関する問題)を中心とした出題
学習状況調査			・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

学力調査の結果

1. 教科に関する調査結果（平均正答率）

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
全 国（公立）	65.4	50.5	72.2	51.6
広島県（公立）	67.8	53.3	74.3	53.6
府中市	66.6	52.4	72.9	50.5
上下南小学校	65.4	51.9	72.5	58.2

平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。調査結果をみるにあたっての指標の一つであり、学力のすべてを表すものではありません。

2. 調査問題の趣旨と内容

区分	問題の趣旨と内容例
国語 A (18問)	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) 同音異義や同義異義の漢字を使い分ける。 スピーチの組み立ての工夫をとらえる。 グラフから分ったことをメモに取る。 文章の内容に合わせて、小見出しを書く。
国語 B (12問)	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。 (例) インタビューの仕方や内容について評価した理由を書く。 登場人物の心情と場面についての描写を叙述と関係付けて読む。 「図書だより」の内容を読み、自分の考えを書いたり、案内状に書き換えたりする。 二つの意見文を比べて読み、文章全体の組み立ての違いをとらえる。
算数 A (19問)	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) 整数、小数の四則計算をする。 示された重さや面積のものを選ぶ。 基本的な図形の性質に基づいて図形を弁別する。 基準量と割合から比較量を求める。
算数 B (13問)	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。 (例) 日常の事象を数理的にとらえ、図形を見いだす。 図形の性質を基に面積の関係をとりえ、その判断の理由を説明する。 割合の考えを用いて他者の考え方を評価し、その理由を説明する。 示されたグラフの対応を判断し、グラフから読み取れる違いを説明する。

3. 調査結果にみられる本校の特徴と課題

【国語】

学習指導要領の領域	区分	特徴と課題
話すこと 聞くこと	A問題 (知識)	相手にとって分かりやすいスピーチの組み立ての工夫をとらえることは相当数の児童ができている。 下書きの文章と発表原稿とを比べ、発表しやすく工夫したところをとらえることは相当数の児童ができている。
	B問題 (活用)	相手や目的に応じた内容や質問する順序を考えながら適切な言葉遣いで聞くことは相当数の児童ができている。
書くこと	A問題 (知識)	文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲することに課題がある。
	B問題 (活用)	登場人物の心情と場面の様子をとらえ、与えられ条件に即して書くことに課題がある。 情報の中から目的に応じた事柄を取り出し、分かったことや自分の考えを明確に書くことに課題がある。
読むこと	A問題 (知識)	目的や意図に応じて段落の内容をとらえることに課題がある。
	B問題 (活用)	物語文の冒頭部分における登場人物の特徴をとらえることは相当数の児童ができている。 文章の内容を読み取り、文章全体の構成を読み取ることに課題がある。
言語事項	A問題 (知識)	漢字を正しく読むことは、相当数の児童ができている。
	B問題 (活用)	似た意味の言葉の使い分けとして、適切な説明を選択することに課題がある。

...相当数の児童ができている点 ...課題のある点

【算数】

学習指導要領の領域	区分	特徴と課題
数と計算	A問題 (知識)	...整数, 小数, 分数の四則計算は, 相当数の児童ができている。 ...商を分数で表したり, 小数の計算における乗数と積の大きさ, 除数と商の大きさの関係について理解することに課題がある。 ...何倍かを求めるために除数が用いられることを理解することに課題がある。
	B問題 (活用)	...グラフから乗法を読み取ることはできている。 ...情報を整理選択し, 筋道を立てて考え, 示された判断が正しい理由を記述することに課題がある。
量と測定	A問題 (知識)	...平行四辺形の面積の求め方を理解し, 面積を求めることはできている。 ...重さや面積についての感覚が十分身に付けられていない。

	B問題 (活用)	...円の面積の求め方を基に半円の面積の求め方を表す式の読み取りはできている。 ...図形を変えて考える発展的な場面で、図形の間係をとらえ、判断の理由を記述することに課題がある。
図形	A問題 (知識)	...円周率やひし形、二等辺三角形の定義はよく理解している。
	B問題 (活用)	...開け閉めするドアの動きが、円の一部であることを見出すことなどはできている。 ...図形を変えて考える発展的な場面で、図形の間係をとらえ、判断の理由を記述することに課題がある。
数量関係	A問題 (知識)	...円グラフから割合を読み取ることはできている。 ...加法と乗法の混合した整数の計算に課題がある。
	B問題 (活用)	...グラフから情報を読み取ったり、学年ごとの身長を表した表から身長の伸びを求め、その伸びを棒グラフ表すことなどはできている。 ...他者の考え方が正しいかどうかを割合の考えを用いて判断し、その理由を記述することが課題がある。 ...示された解決方法を理解し、その解決方法を用いて別の問題の解決方法を記述することに課題がある。

...相当数の児童ができている点 ...課題のある点

4. 今後の指導改善策

【国語】

学習指導要領の領域	指導改善策
話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のあらゆる場面で言語技術を活用させることにより、聞いている人に分かりやすい話し方を指導する。 ・要点を的確にとらえて聞くことができるようにメモの取り方を指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた多くの情報の中から必要なものを選択させ、目的に応じた紹介文や招待文を書く練習をする。 ・字数や表現様式など条件を示して、テーマに沿って書く言語活動の場を多く設定する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取り方のポイント(文の起承転結、キーワード、5W1Hなど)を指導することにより説明文を構造的にとらえさせ、要点・要旨をまとめる力をつける。 ・読書活動を推進し文章にふれる機会を増やすことにより、長文を速く読めるようにする。 ・主述に留意しながら読む習慣をつける指導を日常的に行う。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> ・難語句は自分で辞書を引いて意味を調べる習慣をつける。

【算数】

学習指導要領の領域	指導改善策
数と計算	・商を分数で表したり，小数の計算における乗数と積の大きさ，除数と商の大きさの関係について日々の授業で，機会をとらえ学習させたり，実物を通して実感させる学習をしていく。
量と測定	・重さや面積について教科書だけの学習でなく，学習したことを実際の事物を通して体感させる学習を積み，自分の生活に生かすことができるようにする。
図形	・面積について学習したことをもとに，そのことを活用して求められる課題を面積の学習にあわせて学習する。
数量関係	・加法と乗法の混合した整数の計算などを繰り返させる。 ・課題を解決するための論理的な思考とそれを表現する能力を育成するため数量関係を用いた課題については，学習の中で自分の考えや他者の考えを出し合いながら思考を深め解決する学習をさせる。

【学校としての取組み】

指導改善策
<p>自分の思考や他者の考えの過程が分かるように整理したノート作りを学年に応じてしていく。</p> <p>論理的な思考を深めていくために学習の中で意見を出し合いながら高まっていくよう，練りあいや発言の組織化を図っていく。授業研究などを通して検証していく。</p> <p>文章の内容から課題を解決するためにどの情報を考えていくといいか，要点は何かを読み取る力を育むために，読書の充実を図る。</p> <p>チャレンジタイムなどで目標を持ち短時間で継続的に基礎学力を培えるよう学習活動を充実する。</p> <p>算数や国語においては，文章を読解する問題を学習や家庭課題に増やしていく。</p>

学習状況調査の結果

1. 学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる本校の傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目
<ul style="list-style-type: none">・学校の宿題をしている。(100%)・国語・算数の両教科における、すべての書く問題で最後まで回答を書こうと努力している。(100%)・朝食を毎日食べている。(92.3%)・学校に持っていく物を前日か、その日の朝に確かめている。(92.3%)・将来の夢や目標を持っている。(92.3%)・人の役に立つ人間になりたいと思う。(92.3%)
肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目
<ul style="list-style-type: none">・体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたこと。(54%)・国語の勉強は好きである。(53.9%)・1日当たり、テレビやビデオを見る時間。 (「2時間以上～4時間見る」が本校85%、「2時間以上」の全国が66%) <p>次の項目は全国平均より低くはないが、本校の全体課題として取り組んでいることなので取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none">・食事をするときテレビを見ないようにしている。 (「時々みている」「いつも見ている」が本校85%、「時々見ている」「いつも見ている」が全国79%)

2. 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

<ul style="list-style-type: none">・日常生活や体験的な学習の中で感じ取ったことを、言葉などを用いて表現させる場をつくる。・児童の実態に即し、興味関心を踏まえた視覚的教材を活用する。・学級活動の時間に、家庭でのテレビ視聴時間について考えさせる。・保護者と連携し、学級懇談や学級通信を通して、家庭でのテレビ視聴のルールについて親子で話し合ってもらおうと呼びかける。
--